

平成29年10月28日（土）オープンスクール 卒業生スピーチ（O. K. さん）

皆さま、ごきげんよう。卒業生のO. K. と申します。私は今年の三月にここ、湘南白百合学園を卒業しまして、現在は早稲田大学の文学部に通っています。受験生の皆さま、保護者の皆さまに在学中の思い出を話してほしいというように先生からお話を頂きまして、本日は懐かしい母校に帰ってまいりました。等身大の湘南白百合生のスクールライフについて、私なりに一生懸命お話ししたいと思います。至らない点もあるかと存じますが、受験生の皆さまはご自分が入学されてからのことを想像しながら、楽しんで聞いてくださるととてもうれしいです。

さかのぼること七年前になりますが、私も本校を志望する中学受験生でした。入試を終え、無事に本校への入学が決まった瞬間は本当にうれしかったのですが、喜びとともに、「こんなお嬢様学校に入学して、友達はちゃんとできるのだろうか」という不安も感じていました。私も入学する前はこの学校をお嬢様学校ではないかと思っていました。そんな不安を頭の隅へと追いやりながら、入学手続きの書類を校舎に受け取りに訪れた日は、二月にしては確かに暖かな日だったと記憶しているのですが、事務所の出入り口の扉の前の芝生になっているところに、二人の湘南白百合生の先輩が日向ぼっこをしていました。今思えばおそらく大学受験期で授業のない高3生だったかと思うのですが、お嬢様学校というイメージから一気に、生徒が日向ぼっこをしている学校、というイメージに変わった衝撃的な光景でした。勿論日向ぼっこをするような生徒はごく一部ですけれど、皆どこかのんびりしたところがあるのは、白百合生の共通点かもしれません。

さて皆様の中には、併設小学校からの内部進学の子と友達になれるだろうか、という心配をしておられる方も多いかもかもしれません。結論から言いますと、全く問題はありません！ 入学する前は私も不安を募らせておりましたが、いざ入ってしまえば、内部進学の生徒はみな、新しい友達が欲しくてうずうずしているので、気さくに話しかけてくれます。また、私もそうだったのですが、通学時間が片道で一時間以上かかりますのも、その登下校中に友達と話したり、あるいは試験範囲の問題を出し合ったりと、なかなか楽しく思い出深い時間でした。

さて、湘南白百合の一年間の行事のうち、一番初め、5月に行われるのが体育祭です。桜組、菊組、梅組、百合組と4つのクラスで優勝を争うのですが、この体育大会は運動が得意な人は勿論のこと、苦手な人も楽しむ、どこか活躍することさえできました。種目はその多くが運動神経というよりもチームワークを試されるもので、体育の授業を通して、たとえばムカデ競争なら、チーム全員であと一秒早くゴールするには何が課題なのか、と隠されたコツを探り、試行錯誤を繰り返して、各々のチームが編み出した最善の作戦で挑む、というようなものでした。またなんととっても応援が白熱し、自分の組の応援ともなれば、上級生も下級生も関係なく、一日中声援が途切れることなく続きます。優勝できなかったとしても、私は六年間中五年間最下位の組でしたが、本当に楽しい思い出になります。

次の行事は、六月末にある音楽コンクールで、こちらは中学と高校に分かれて、各クラス別に課題曲と自由曲の合唱に取り組みます。生徒が指揮をし、生徒が伴奏をし、音楽の授業で先生に指導していただく他にも自主練習があり、生徒がその計画も指導も行っていきます。私は在学中コーラス部に所属しており、また現在でも合唱を続けておりますが、一つのハーモニーを作り上げるというのは本当に難しく、多くのことが上手いかねばなりません。音程や発声、そして何よりも気持ちをクラス全員で揃えていくこの行事は、大変ではありますが、それだけに乗り越えるたびにクラスの絆が増すようなもので

す。高校三年生にとっては学園生活最後の行事がこの音楽コンクールにあたるのですが、最後の学年全員での合唱は皆が涙を流していました。

先日の文化祭に足を運んでくださった方もいらっしゃるかもしれませんが、夏休みと9月の研修旅行を経ますと、一年間の部活動の集大成である聖ポーク祭（文化祭）があります。こちらはクラス行事というよりは、各々が所属している部活や委員会、あるいは有志で文化祭の為に立ち上げた団体で活動する行事です。私はコーラス部での舞台、図書委員会での古書販売に、有志団体でのお化け屋敷運営など、休む間もないほどでした。そんな中でも、クラスメートが発表を聴きに来てくれたり、忙しくて並ぶことはできないけど頑張っってねと、お化け屋敷の受付まで声を掛けに来てくれたりしたことで、頑張っってきてよかったと思える瞬間ばかりでした。

この学園には他にも紹介しきれないほどの行事があり、その一つ一つで、それを少しでも良いものにするために努力する仲間の姿を見ます。それぞれの行事において、誰かが運営や責任者という立場で計画し、全員がその仲間のためにできることを見つけていきます。私が行事の度に思っていたのは、この学園には他人の活躍に無関心な人がいないということ。互いに応援しあい、活躍をたたえ、そして感謝するということが当たり前に行われているのです。それはつまり、他人へ無関心ではない、ということなのです。活躍している光のときだけではなく、一人ではどうにもならない困難にあるかげのとき、この学園には、先生も生徒も、決して困っているその誰かを放っておく人はいません。

私はコーラス部で続けていた合唱の他に、もう一つ短歌という趣味があって、高校三年生の夏には全国大会である、短歌甲子園に出場しました。高校三年生の夏、皆が大学受験のために猛勉強をしているなか、私だけ大会に参加していてよいのだろうかと思んだとき、私が相談した先生方も友人も皆、高校生の間にはしかできないことなら、そっちをやった方がいいと背中を押してくれました。大会中には、同級生から応援のメールが何通も何通も届きました。

湘南白百合学園は、最後まで大学受験の進路別にクラス編成を変える、ということはありません。授業だけを進路別に分ける形式をとっているのも、最後まで、医学部に進学したい人も、文系も、芸術系も、皆が同じクラスで過ごします。それはやはり、生徒が生徒同士、互いに無関心ではないことを、支え合える仲であることを先生方が信じてくださっているからではないかと私は思っています。進路が同じだから支え合うのではなく、ただ友達だから応援し、支え合っって各々が受験に挑んでいきます。

私は夏までを短歌の大会にかけていましたので、本当に身を入れて勉強したのは高校三年生の秋になってからでした。放課後は毎日図書室に残り、三学期の自由登校期間にも図書室に通い、昼休みの休憩時間には図書室に来てくれる部活動の後輩と話したり、先生に調子を尋ねられたりしながら、なんとか希望の進路に進み、今一番勉強したかったことを学んでいます。趣味の方も、最後の音楽コンクールの自由曲を作曲した先生の合唱団に入って合唱を続け、短歌では新人賞に投稿するなど、私なりに努力をしているところですが、この学園での同級生とも頻りに連絡を取りあっって、今度はお互いの学園祭に足を運ぶ約束をしたりと、相変わらず絆は続いています。

さて、湘南白百合学園を志望している受験生の皆さま、特に六年生の皆さまは、毎日勉強に励まれていることと思います。時には不安になったり、またそのことで保護者の方と喧嘩になってしまったりすることもあるかもしれません。私も七年前になりますが、不安になって家族と衝突することも多くありました。湘南白百合の入学試験で行われる面接は、保護者ひとりと受験生ひとり、という形式で行われます。私は緊張して、「保護者の方の尊敬しているところはどこですか」という質問に三分間も考え込み、

拳句、「前向きなところですよ」と答え、面接官の先生方を大笑いさせてしまいました。無事に受けました。もし勉強をしていて上手くいかないことがあったら、志望校に受かった後のこと、どんな部活に入ろうとか、どんな友達を作りたいとか、是非保護者の方とお話してみてください。これから寒くなってまいります。体調を崩されることが無いように、また保護者の皆さまも、お嬢様の受験を控えて自分のことのように気を詰めていらっしゃるかもしれません、どうかご自愛ください。これは私の前向きな母がいつも申していることですが、夜明け前が一番暗い、と諺にもございます。辛いときは今が一番光に近づいているときと頑張って頑張りください。

皆さまのご活躍をお祈り申し上げますとともに、以上で私の話を終わりたいと思います。つたない話ではありましたが、最後までお聞きくださりありがとうございました。